



四小だより

い ち ょ う

平成27年 5月13日号

山形市立第四小学校
校長 坂本 澄子

〒990-0055

山形市相生町4番37号

TEL 623-6019

FAX 633-9321

<児童数 183名>

「相手を大切にしよう」という思いで他者と向き合う

立夏も過ぎて、大いちょうの緑が色濃くなり、街路樹のハナミズキも美しく咲きそろいました。

今年の児童会目標は「相手に気を配って行動しよう」です。「相手に気を配る」というのは、大人でも難しいことですが、昨年度の「やさしさいっぱい四小」を受けて、さらに思いやりのある四小にしていきたいという願いから決められました。そのために、①人の話をよく聞く ②言葉を選んで話す ③マナーを守って生活することを大切にしていきます。

四小は「つながり」を大事にしながらくらしをつくらしている学校です。今年のテーマは、つながりの中で他者に対する向き合い方を考えることだと思います。常に、相手を大切にしようという思いで他者と接する、相手に誠意と尊敬を持って向き合うことが求められます。

授業はもちろん、様々な体験活動を通して、相手の思いに寄り添ったり、思いが伝わる「ことば」を探したりしながら、つながりを深めていってほしいと願っています。



いちょう児童会総会での提案



いちょう運動会 スローガン

「一人一人が本気でぶつかり つみ上げた力を発揮し 今の自分をこえろ!!」

四小では、23日の「いちょう運動会」に向けて練習や準備が始まり、7日には赤白の結団式が行われました。今年のテーマは「一人一人本気でぶつかり、つみ上げた力を発揮し、今の自分をこえろ」です。子どもたちによる実行委員会を中心に各係会が組織され、自分たちの手で企画、運営、そして実行されています。

昨日から各係での仕事がスタートし、グラウンドキーパーはグラウンドの砂掃きをしていました。どうしても砂が多いと滑りやすく走りにくいので、みんなが走りやすいようにという思いがあったのだと思います。ここにも、上述した「相手を大切にしよう」という気配りが見られます。どの係も四小の運動会にはなくてはならないとても大事な役割があります。子どもたちが自分の仕事を理解し、運動会成功に向けて責任を持って取り組んでいる姿を見るのはとても頼もしく感じます。そこには、先輩から後輩へ脈々と受け継がれてきた四小の伝統があり、その後ろ姿を見て学んだ子どもたちが、今、自分たちの運動会を創り上げようとしているのだと思います。

これから、リレーの練習やダンス練習などの取り組みも始まりますが、子どもたちが運動会を自分ごととして捉えて向かっていく姿を見ていきたいと思っています。

当日、子どもたちが「挑戦」「交流」する姿、そして、「自立」に向けて成長する姿をぜひ見にいらしてください。保護者の皆様、地域の皆様の温かい声援をよろしくお願いいたします。



<5月12日 全校朝会の校長講話>

「奇跡のいのちをつなぐ」

今日は、『いのちをつなぐ』というお話をします。

この春、校長先生は『桜開花600度の法則』が本当かどうか試してみました。この法則は、2月からの最高気温を足していって600度になると桜が開花するというものです。桜は300種類以上あるといわれますが、この法則に当てはまるのは「ソメイヨシノ」という品種で、四小では北門の所にある桜です。ちなみに、ソメイヨシノというのは、江戸彼岸桜と大島桜をかけ合わせてできた品種だそうです。

2月1日から新聞にある最高気温を毎日メモして足していきました。そして、ちょうど600度になった日は4月11日でした。四小の北門の桜を見ると、なんと枝の先に花が咲いていたのです。山形ではその日に開花宣言がなされました。校長先生は、思わずガッツポーズを取りました。この冬はかなり厳しい寒さでしたが、植物は条件が満たされればちゃんと花を咲かせる、改めて自然の偉大さを感じました。ソメイヨシノもしっかりと「いのちをつないで」いるんですね。

私たち人間も、この自然の中で生きています。私たちは、みんないのちをもっています。私たちのいのちは、親からいただいた大切なものです。今、自分がいるのは父母、その前は祖父母・・・というように、10代前で1,024人、15代前で16,384人、20代前では1,048,576人と、それまでの全ての人のDNA（遺伝子）が受け継がれて、今、私たちの中に息づいているのです。ここで「自分の番 いのちのバトン」（相田みつを）という詩を紹介します。

皆さんは、「いのちのもと」がどのくらいの大きさか知っていますか。この黒い紙に針を刺した穴（0.2ミリ位）、こんなに小さい目に見えないほどの大きさの「いのちのもと」が、お母さんのおなかの中でくすくす育て、皆さんが誕生したのです。いのちは奇跡ですね。

家の人から、自分が生まれたときのことを聞いたことがあると思います。難産でやっとの思いで産まれてきた人、大きな産声を上げて元気に産まれてきた人・・・それは、一人ひとりみんな違います。でも、同じなのは、あなた方が産まれてきたときの家族の思いです。どんなに嬉しく愛おしく思ったか・・・そして、その思いの現れが名前です。皆さんの素敵な名前には、こんな人間になってほしいという家族の願いや期待が込められているのです。

奇跡のいのちはたった一つ、かけがえのないものです。だから、自分のいのちも他の人のいのちも大切です。奇跡のいのちをもらって生かされている私たちは、いのちを大事にし、いのちのバトンを「未来」につないでいかなければなりません。

自分の番
いのちのバトン

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で 千二十四人
二十代前では・・・？
なんと 百万人を越すんです
過去無量の
いのちのバトンを受けついで
いま ここに
自分の番を生きている
それが
あなたのいのちです
それが わたしの
いのちです

みつを



四小 北門 満開のソメイヨシノ